

しず老施協

巻頭言

『激変の潮流に乗って』



静岡県老人福祉施設協議会

副会長

奥津 匡俊

静岡県老施協の皆様には、老人福祉施設がまだまだ少ない措置の時代からお世話になっています。

振り返れば時代の変遷の中で、その時々の老施協の先達やお仲間の尽力により、今日の県老施協が有るものと存じます。

私自身は微力ですが、少しでも皆様のお役に立てるよう精進いたしますので、宜しく申し上げます。

御存知のように、急速な人口減少と少子高齢による労働力の不足や経済収縮から、国民生活の様々なシステムの維持継続が困難となる事は避けられず、とりわけ社会保障費の歳出カットと効率給付の大転換が国家的な急務となっています。

医療を基軸にした地域包括ケアへの転換を進め、ターミナル期の医療費抑制や、在宅や介護施設へ転換が進みます。

また、介護保険の利用料の現役並み所得者の2割負担が3割になるなど、平成30年の診療報酬と介護報酬のダブル改定を睨み、利用負担の整合が図られ、地域包括ケアシステムは、医療計画と介護保険事業計画の同時策定を軸に推進される事に成ります。

社会変動は、生活困窮に陥り易い高齢者とその家族を直撃し、セーフティネットである老人福祉施設の経営も厳しさを増すことが予想されます。

一方、福祉の現場は人手不足が深刻で、従前のクオリティやモチベーションの維持が難しい現状にあります。

そんな中でも若いリーダーの皆様が、ポジティブな

考えで様々な挑戦をしている様子が、老施協の研究大会の発表や、21世紀委員会の活動の中でも覗え、確実に時代が変わって来たと感じます。

我が国の人口動態や社会システムのみならず、「第三の波」と言われたIT革命は、ソーシャルネットワークやセンサー・巨大データ集積や人工知能の発達を加速化し、人々の関係性や、医療や環境・文化や思想、産業経済やビジネス等、様々な分野を激変させます。

世界中の出来事や技術革新の方向と広がりや、国境や文化の壁、慣れ親しんだ私たちの生活や従来の方法を、容易に乗り越え、嵐の様な速さと規模で思いもよらない未来に向かって進んでいきます。

福祉の現場でも、記録の電磁情報化や、センサーや人工知能・ロボット導入、外国人労働者の受け入れや、業務省力化・外部化等、私たちの培ってきた職場の在り方は、大きな激変の脅威に直面しています。

私たちは、過去を振り返ることで現在の変化の性質・大きさ・背景を知り、この流れに対抗する勢力の動向をしっかりと注視し、地勢的变化や地域性を考慮し、激変による苦悩や障壁を乗り越えて、私たちの適切な選択で進歩と発展は可能であるとする楽観的な観方が大切なのだと思うのです。

変化をネガティブに捉えるのではなく、素早く対応し、未来を先取りできるよう、若くて意欲的な皆様と共に、静岡県老施協が様々な活動を通して、情報と認識を共有して、会員が相互に協力して行けることをご期待申し上げ、巻頭のご挨拶といたします。

特集1

特別養護老人ホームにおける入所状況調査について

企画経営委員会委員長 大塚 芳 正



この調査は昨年度に企画経営委員会及び特養委員会で行いました。

静岡県老人福祉施設協議会は静岡県健康福祉部福祉長寿局と意見交換の場を毎年設けており、介護・福祉の増進のための環境整備に寄与しております。

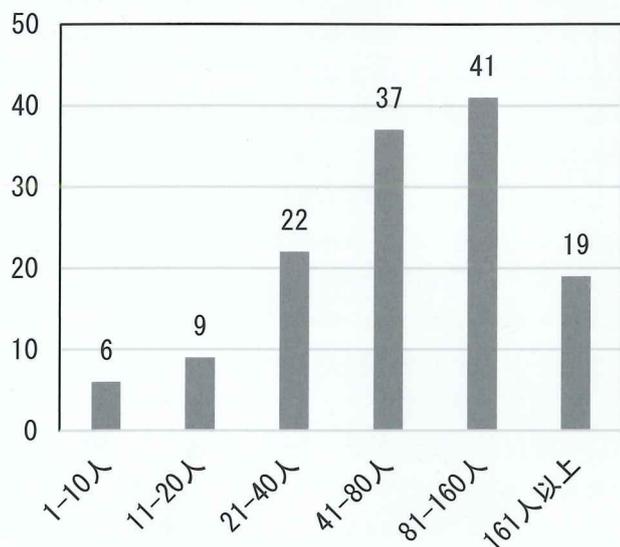
昨年度のその席で、双方の認識の食い違いが表面化することがありました。県当局は、静岡県での特養入所の待機者は依然高い水準にあり、特養の施設整備は今後も着実に推進していく必要があるという認識でした。それに対して、老施協側は、地域差はあるものの、施設整備の充足率はすでに十分に高いというものです。待機者は一見多いものの、実際には入所可能な状況となっても入所を断る者も多く、待機者数は必ずしも必要数ではないということです。会議の中では認識の違いは埋まりませんでした。したがって、それをデータとして示す必要があると考え、今回の調査を行った次第です。

結果は報告書として会員施設に届けたところですが、まとめの概略をここに改めて掲載します。

○重要な調査結果

・H28.12月時点での施設当たりの入所待機者は、平均が84.7人であり一定の入所待機者が認められた。

図1 施設別入所待機者数の分布



しかし、施設間のばらつきは大きく、10人以下の待機者数の施設もあった(図1)。

・H28.4月～H28.12月の期間において入所案内した入所待機者の総数は4,411人であった。そのうちの入所決定者は1,927人、入所しなかった者は2,484人であり、入所決定率は43.7%であった(図2)。

○結論

① 特別養護老人ホームにおいて、入所を案内されたにもかかわらず、半数以上の入所待機者が入所につながらなかったことが判明した。

② 特養施設整備の必要性の判断は静岡県が行っている入所待機者数調査がベースとなっているが、今回の調査をふまえるとすぐに入所を必要としている入所待機者は半数以下として評価した方がよいものと考えられた。

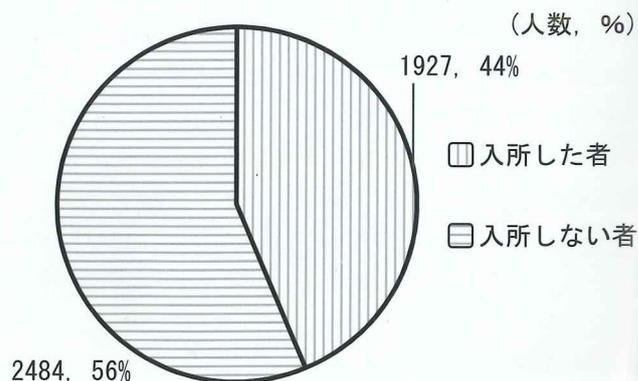
③ 一部の地域において、すでに入所待機者が極めて少数で、定員割れしている施設もあり、今後の施設整備は地域状況を十分に考慮する必要があると考えられた。

○企画経営委員会の調査研究について

企画経営委員会における調査研究事業はそれぞれの会員の経営に資するとともに、業界団体としての我々の主張を明確にするための資料を用意することでもあります。この調査を有意義に活用していきたいし、会員各位の参考になることを期待します。

(すどの杜施設長)

図2 入所決定通知の結果



特集2

養護老人ホーム実態調査を経て

養護委員会副委員長 峰野政博



養護老人ホームは、近年定員割れの施設の増加に加え、入所者の重度化・精神疾患や認知症・知的障害・触法経験者、虐待経験者等多岐にわたる高齢者の養護を目的に入所受入を行ってまいりましたが、

全国956施設の養護老人ホームの大半が定員割れの状況にあり、経営状況にも大きな支障を生じている状況にあります。

そこで、平成26年度より県下24の会員施設のご協力のもと実態調査を実施し、同時に、県内の措置権者である35全市町にも、調査を依頼してまいりました。

養護老人ホームは現在でも措置制度が継続され、そのため措置委託に頼らざるを得ない福祉施設として現在に至っています。そんな中、介護保険制度の施行以降措置制度に対する各市町の対応に格差が生じ、支援を要する高齢者の発見、アセスメントといった調査機能が脆弱になっているとの懸念も生まれています。

一方、施設の状況は、県下会員施設の内公設公営施設が1施設、公設民営（指定管理）の施設が13施設、民設民営が10施設という状況であり、入所状況については、県下会員施設の総定員1508名に対して、平成24年度当初に94%、26年度に88%、本年4月の時点で、83%の状況にあります。（図1）

また、入所者の状態を見ると、要介護状態にある方が35%、認知症自立度調査では、Ⅱb・Ⅲaの方が自立の方の2倍となり、収入については、無年金の方が2割弱という状況にあります。

本年度の措置権者である市町への調査から、新規入

所者の状況は、虐待を除く家族関係調整と精神障害及び長期入院（主に精神科）後戻る所がない方の入所が多いこと。また、退所については、死亡に次いで長期入院による措置切れと老健入所、特養入所が続いていることが分かります。（図2、図3）

そして、経営状況については各施設ともに人件費比率の高騰と、老朽建物の修繕費捻出や建て替えの困難さを訴える施設が多く、特に民設民営の施設は、絶望的観測をしています。こうした状況を打開する為にも、会員施設が、一丸となって声を上げて、養護老人ホームの持つ役割、セイフティーネットとしての立場を考慮していただけるよう努力してまいりたいと思います。皆様のご協力をお願いします。

（奥山老人ホーム施設長）

図2 入所理由

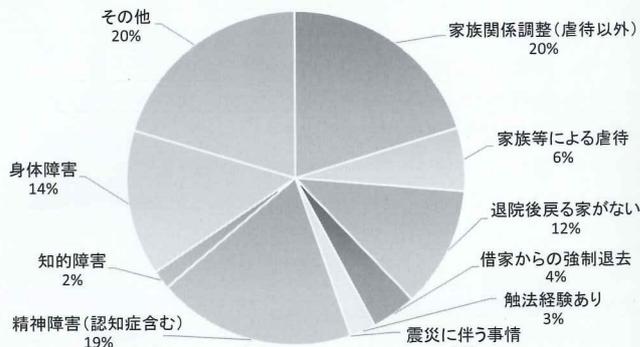


図3 退所理由

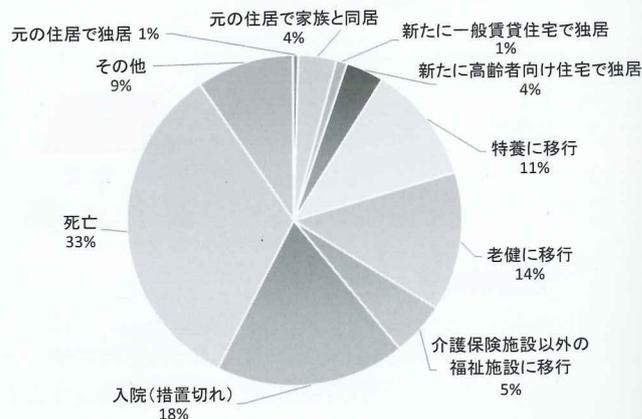
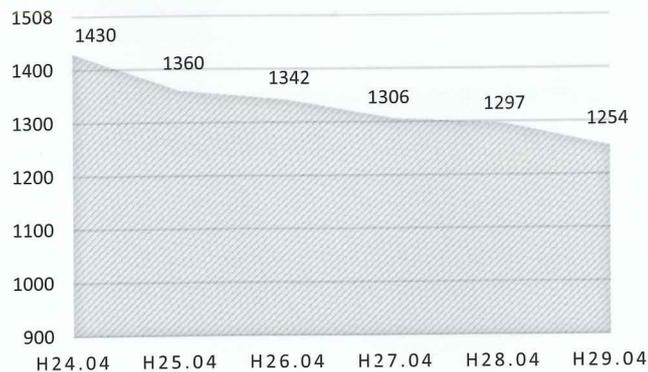


図1 入所者数



新人職員紹介

どうぞよろしくお願ひします

平成の杜

(小山町)



- ① 塩田陽佑 (介護職)
- ② 「あなたがいるから、私はここに通っているのよ。」と言っていたこと。
- ③ スキージャンプの葛西紀明選手。40歳を超えても自分に甘えることなく、努力を惜しまない点や悔しさをバネに結果を出す点など見本にしたいです。
- ④ 両親に感謝を込めて何か贅沢ができればいいかと思ひます。残りは将来のために貯金します。
- ⑤ どなたがいらしても「通ってみたい」と感じていただける施設にしたいです。
- ⑥ 学生時代の時、施設見学をし、ご利用者様が大変笑顔で楽しそうにレクリエーションに参加され、職員さんの対応も気持ち良かったので選びました。

葦山・ぶなの森

(伊豆の国市)



- ① 山口健一 (介護職)
- ② ありすぎて何を書いて良いかわかりません。
- ③ 柳田悠岐 (ソフトバンクホークスの4番打者)
- ④ 車を買います。
- ⑤ 楽しい施設にしていきたいです。
- ⑥ 雰囲気と職員の入居者様への声かけがよいと思ったからです。

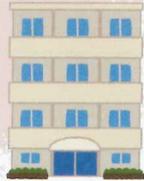


晃の園

(静岡市)



- ① 井ノ口由貴 (介護福祉士)
- ② 動物園に行ったこと。
- ③ 小栗旬
- ④ マンション1棟購入。
- ⑤ 今よりもっと笑顔のあふれる施設にしていきたいです。
- ⑥ 実習で行かせていただいた時に、職員の方や、利用者様の優しさを感じ、こちらで働きたいと思ったため、就職しました。



片岡杉の子園

(吉田町)



- ① 益田瑞穂 (介護士)
- ② 自分の好きな映画の続編が始まったことです。
- ③ 神木隆之介 (俳優)
- ④ 家を買う、海外旅行行ったことがないので行ってみたいです。
- ⑤ 利用者に満足してもらえて、家族の方にも信頼されるような施設にしていきたい。
- ⑥ 介護の仕事に興味があり、地元で働きたかったからです。



宇布見の里

(浜松市)



- ① 徳井遥香 (管理栄養士)
- ② ユニバーサルスタジオジャパンに行けたことです。
- ③ 日本ハム 大谷翔平選手
- ④ 家を買います。
- ⑤ 今後、笑顔あふれる施設にしていきたいと思ひます。
- ⑥ お年寄りが好きだからです。



葵の里

(浜松市)



- ① 金子裕史 (介護職員)
- ② 弟が目指していた学校に入学できたこと。
- ③ Aerosmith (エアロスミス)
- ④ 親に今まで自分に懸けてくれた学費を返したい。
- ⑤ 自分が入所したいと思える施設にしたい。
- ⑥ 実習できた時に職場の雰囲気が明るく「ここで働きたい」と思った為。



各施設の新人職員にお聞きしました。

- Q ① 氏名・職種 ② 最近あったうれしいことは ③ 好きなタレント、スポーツ選手
 ④ もし宝くじで1億円当たったら何に使うか ⑤ 今後どんな施設(職場)にしていきたいですか
 ⑥ 施設を選んだきっかけや決め手は何ですか

静岡県老施協東部支部の活動紹介

防災への取り組み

特別養護老人ホーム 葦山・ぶなの森 安河 章 央

静岡県の防災対策は世界一と過去にはよく耳にしましたが、今はどうでしょうか。昭和50年代東海地震説が発表され、それから40年もの歳月が流れ、その間に平成7年の阪神淡路大震災、平成23年の東日本大震災、平成28年の熊本地震、同年の岩手県水害など近年国内で大きな災害が発生しました。そのたびに高齢者や障害を持った要援護者といわれる災害弱者が大変な被害にあっております。特に熊本地震では、直接死は50名でしたが関連死と言われる、避難所・車中泊等での避難生活が原因で心身ともに疲弊し亡くなり、自殺などで命を絶つ方を含め200名を超える方々が悲惨な状況となっております。

また、昨年7月には、相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」において死者19名が発生した殺傷事件などもありました。

弱い立場にある施設利用者への災害と防犯対策は施設自体が対策を講じていかなければならないと感じます。

特別養護老人ホーム 葦山・ぶなの森では、平成27年から福祉避難所の対応訓練、また災害後継続対応しなければならないことからBCP対策、そして職員教育を含め実施しております。訓練等で分かったことは、施

設職員だけでは災害等の利用者避難は物理的に不可能であり、地域の方々の協力が必須であることがはっきりと見えてきました。そこで、今実施しているのは、近隣の自治体・区民の方々への参加協力をお願いしております。訓練を一つのツールとして、皆さんに当施設の中に入ってもらい、避難体験や防災訓練を通じて、施設のことや入所されている高齢者の方々の状況なども知ってもらうことで、地域との一体感に繋がっております。もちろん、区の諸行事の草刈りやお祭りなどにも積極的に参加し、区の一員であることをアピールしております。

当施設が実施しているこれらの諸事業については、県社協にその都度情報提供しております。これからも県下の福祉施設の防災・防犯の参考や指針になればいいかと思います。



21世紀委員会の活動

21世紀委員会委員長 木下晋一

21世紀委員会では、逼迫している介護人材確保対策として、平成26年度から「学生セミナー」を実施しており、実施した学校から高い評価を受けています。若手介護職員が直接介護職を目指す学生（高等学校・大学・専門学校等）に介護現場での実際の経験を伝えることで、介護職、就業への不安が解消され、各施設への親近感・信頼度が向上すると共に、介護の質の高さを知ってもらい、一人でも多くの学生が介護職の魅力に気付いて、老施協会員施設への就業意識が高まる事を目的としています。

学生セミナーは各学校で授業単位の一コマとして認められています。一限90分間の内容は、前半30分間が講師講演で、残り時間でパネルディスカッションを実施します。講師には、学生の親近感を得るために、その学校の卒業生や比較的年齢の若い静岡県老施協会員施設の職員が当たります。講師は、高齢者介護を目指した経緯や現在働いている施設での役職、仕事内容、やり甲斐等現場で働く職員としての生の声を伝えます。コーディネーターには、主に21世紀委員が当たり、パネリストには、やはり、その学校の卒業生や会員施設の職員等が当たります。自己紹介の後、予め学生に行ったアンケート結果を基にコーディネーターがパネリストにそれぞれ話題を振って行きます。事前に実施したアンケート調査で、学生達が真剣に介護職就業について考えていることが窺えます。先輩パネリスト達

はそれを真摯に受け止め、誠意を以て学生の質問に答えて行きます。給与の具体的な額であるとか、結婚して家庭を持つことが可能か、住居が購入出来るか、中には、女子学生から「この仕事をしていて恋愛はできますか?」といった質問に対しても、卒業生の先輩パネリストは相手の気持ちをしっかり汲んで「恋愛は可能ですよ!」と答えてくれました。

学生セミナーを通して、学生達が介護職就業にあたって不安に思っている事、希望している事、普段、彼らにとって何が大事なのか、かなり本音に近い部分を知る事が出来ました。そして学生も自分たちが介護職に就いた場合の3年先、5年先、10年先を先輩達の働く姿勢を通して垣間見る事が出来たと思います。また一部の大学では、我々に期待するのは単に生徒の就職先というだけで無いという事。就学、就職の一連の活動の中で、老施協組織や、大学が一体となって地域ぐるみの介護人材育成事業を将来に亘って提携出来ないかという事でした。

今年度はこの他に、主なもので、静岡県介護フェアに於いて9月16日、ステージイベントの「ケアDAN-介護男子コンテスト」、11月17日に「静岡ミーティング」、12月迄に「施設間職員交流研修」を実施致します。今後も21世紀委員会では、委員会精神の発露であるチャレンジ精神を遵守し、若い柔軟な思考と発想で起業し、失敗を恐れず実行して行きますので、会員施設の皆様のご協力をお願い致します。

(玉沢昭寿園施設長心得)

平成29年度主な活動計画

日程	事業内容	会場
8月21日(月)	学生セミナー	富士宮東高校
9月16日(土)	ケアDAN介護男子コンテスト	ツインメッセ(静岡市)
11月17日(金)	静岡ミーティング	シズウエル
12月7日(木)	学生セミナー	県立短期大学部
2月3日(土)	学生セミナー	浜松中央長上苑
9月から12月	施設間職員交流研修	



6月28日(水) 静岡福祉大学にて

平成29年度老施協活動報告

【老施協】

- ★29年5月11日 監事監査会
平成28年度事業・収支決算について
- ★29年5月11日 第1回理事会

【協議事項】

理事・委員会委員の補欠の選任、平成28年度事業報告書案並びに収支決算書案、全国老施協カントリーミーティングについて

【報告事項】

施設間職員交流研修の参加者募集について

- ★29年5月24日 第1回総会

【協議事項】

理事の補欠の選任、平成28年度事業報告書案並びに収支決算書案について

【報告事項】

施設間職員交流研修の参加者募集等について

【企画経営委員会】

- ★29年4月21日 第1回委員会
委員の補欠の選任、平成28年度事業報告書案、平成29年度活動計画の調整について
- ★29年5月24日 第2回委員会
平成29年度活動計画、委員会内チーム別ミーティングについて

【研修委員会】

- ★29年4月12日 第1回委員会
平成28年度事業報告案、平成29年度活動計画について
- ★29年5月24日 第2回委員会
研修ガイドライン策定、接遇マナー研修、県外研修、主催研修について

- ★29年6月12日

「接遇マナー」研修会
県総合社会福祉会館703会議室

*講師 Jプレゼンスアカデミー 森田素子氏

- ★29年6月23日

「家族と作るケアチーム」研修会
三島商工会議所4階会議室

*講師 安河草央施設長、及川ゆりこ施設長

【21世紀委員会】

- ★29年4月20日 第1回委員会
平成28年度事業報告案、平成29年度活動計画について
- ★29年6月14日 第2回委員会
「ケアフェスタ2017」の企画内容、各グループの事業内容について
- ★29年6月28日 介護の魅力倍増セミナー
静岡福祉大学 講演及びシンポジウム

【高齢者福祉研究大会実行委員会】

- ★29年5月22日 第1回委員会
研究発表申込状況、要員体制、班別業務内容、審査方法、アンケート等について

【養護委員会】

- ★29年5月9日 役員会
平成29年度活動計画、入所待機者調査について

【特養委員会】

- ★29年6月29日 第1回委員会
平成29年度活動計画、研修会について

編集後記

「ユースエール認定」は、若者の採用・育成に積極的で、若者の雇用管理の状況などが優良な中小企業を厚生労働大臣が認定する制度です。(厚生労働省HPより) このたび、社会福祉法人美芳会がこの認定を受けました。静岡県では東部及び社会福祉法人として初めてだそうです。優遇措置の特典もあります。社会福祉法人が若者雇用、育成に積極的であることを示すためにも、多くの法人が認定申請していただけることを期待します。(大塚)

最近、釣りにハマっています。仕事帰りにそのまま海に直行。仕事が遅くなってもお構いなし。一人ぼっちの夜の海で黙々と竿を振り、魚のあたりを待つ…。この瞬間が自分にとって、何事にも代えがたく、仕事を切り替える大切な時間となっています。釣れる日ばかりではありませんが、今日も海に行きます。(施設の携帯を持って) (佐山)

破竹の勢いでデビュー戦から29連勝。14歳プロ将棋棋士、藤井聡太4段の勝利者インタビューでの対戦相手を敬う言葉遣いは、プロの使命感が感じられる。介護サービスの使命は利用者を敬い、利用者本意の生活を一手一歩よく考え、寄り添う事だと思います。プロとして一つの言葉を大切に精進していきたいと考えています。(高杉)

新 加 入 施 設 紹 介

特別養護老人ホーム

蜂ヶ谷園

法人名 社会福祉法人 駿府葵会
 開設日 平成29年3月1日
 (入会申込 平成29年4月1日)
 施設長 前田 万正
 所在地 静岡市清水区蜂ヶ谷460-7
 入所定員 96名 短期 12名
 デイサービス 15名



特別養護老人ホーム

宇布見の里

法人名 社会福祉法人 三和会
 開設日 平成29年4月1日
 (入会申込 平成29年4月1日)
 施設長 森井 京子
 所在地 浜松市西区雄踏町宇布見字細原9481-1
 入所定員 70名 短期 10名
 デイサービス 20名

特別養護老人ホーム

高部陽光園

法人名 社会福祉法人 珀寿会
 開設日 平成29年5月1日
 (入会申込 平成29年5月30日)
 施設長 吉川 瑞馬
 所在地 静岡市清水区押切997-1
 入所定員 100名



熊本地震義援金への感謝状

昨年発生した熊本地震における被災地の復旧・復興支援活動に当たった静岡県ボランティア協会から静岡県老施協会が行った同協会への寄付に対し、平成29年5月24日定期総会の場で、感謝状が贈呈されました。また、その場で神田均理事長から謝辞がありました。



石川三義会長 (左)、神田均理事長 (右)